

【論文 (査読付)】

- 学校の廃校と廃校の学校—新潟県佐渡市旧大滝小学校の変遷を事例に— 杉本 浄 1
ベンジャミン・リー・ウォーフと「学際」～言語の輪郭をめぐる問題について～
水島久光 31
- 震災被災地で映画館はどのような役割を担うのか
宮城県石巻市の映画上映会を事例に 石垣尚志 45
- 新有権者の争点学習動機とメディア・フレーム
外国人単純労働者の受け入れの是非を争点として 小川恒夫 75

【研究ノート】

- 南フランス・ガール県南部のロマネスク聖堂 (1) —ニームおよびボーケールとその周辺—
中川久嗣 97
- デンマーク絶対王政中期の社会政策に関する基礎研究 (2)
—フレデリック 4 世治世 (1699-1730 年) を中心に— (下) 佐保吉一 145
- 大正期の名探偵・セクストン・ブレイクについて
英語テキストにおける登場から 堀 啓子 166

【調査研究報告】

- 韓国国立古宮博物館の特別展示「笠子帽 (カッ) を被りアメリカに渡った朝鮮外交官の
物語」をみて 李 穂枝 175

【翻訳】

- Charlotte M. Brame 著『ドラ・ソーン (*Dora Thorne*)』(翻訳・その 23) 堀 啓子 182

【研究交流会報告】

- 「人形愛」から「推しを語るわたし」へ～現代文学にみる新しい性愛のかたち～
助川幸逸郎 191

【執筆者】

杉本 淨	東海大学文化社会学部アジア学科准教授
水島久光	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
石垣尚志	東海大学文化社会学部心理・社会学科准教授
小川恒夫	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
中川久嗣	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
佐保吉一	東海大学文化社会学部北欧学科教授
堀 啓子	東海大学文化社会学部文芸創作学科教授
李 穂枝	東海大学文化社会学部アジア学科講師
助川幸逸郎	東海大学文化社会学部文芸創作学科教授

【編集後記】

東海大学文化社会学部第9号紀要をお送りします。今号には、論文4件、研究ノート3件、調査研究報告1件、翻訳1件、研究交流会報告1件を掲載しました。

2022年度後半もコロナ禍およびウクライナ情勢の混迷が続いており、この困難な時期に研究者として何ができるのか、各々が自らに問いかけ続けた1年間が過ぎようとしています。そして地球環境の変化や国際社会の問題は、現在私たちが生きている社会の根幹にかかわることをあらためて実感しました。このような日々において、研究活動を着実に継続し、その成果をご投稿いただいた執筆者の皆さまに感謝を申し上げます。

東海大学文化社会学部紀要委員会

委員 中村るい 文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授

発行者 東海大学文化社会学部 小林元裕

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

Tel 0463-58-1211 (代)

The Bulletin of the School of Cultural and Social Studies

Tokai University

Issue 9, March 2023

【Articles】

- Creativity and Possibilities for Reuse of Closed Public School Buildings
: With Special Reference to the Former Primary School, Otaki Gakusha, at Sado Island,
Niigata Prefecture 1
SUGIMOTO Kiyoshi
- Benjamin L. Whorf and "Interdisciplinarity"
~On the Question of Language Contours~ 31
MIZUSHIMA Hisamitsu
- The Role of a Cinema in a Local Community
: A Field Research of Film Showings in Ishinomaki, Miyagi 45
ISHIGAKI Takashi
- The Media Frame and Issue learning Motive of the New Qualified Voter
: An Experimental Survey on the Acceptance of Foreign Unskilled Workers in Japan 75
OGAWA Tsuneo
- 【Research Notes】
- Les Églises Romanes dans le Sud du Département du Gard
: Alentours de Nîmes et de Beaucaire 97
NAKAGAWA Hisashi
- Fundamental Study on the Danish Absolute Monarchy
in the Period of Intermediate Term (2)
-Focused on Frederik IV's Social Policies (Latter Part)- 145
SAHO Yoshikazu
- A Case study of Sexton Blake: A hero detective of the world of letters in Taisho Era 166
HORI Keiko

【Research Report】

Report of the Exhibition of “Diplomats in *Gat*: The Story of the Joseon Legation in Washington D.C.” 175

LEE Suji

【Translation】

A Translation of *Dora Thorne* by Charlotte M. Brame, 23 182

HORI Keiko

【Research Presentation 】

Transformation from Agalmatophilia to Interpreting about my Favorite
~New Eroticism of Contemporary Literature~ 191

SUKEGAWA Koichiro

『東海大学紀要文化社会学部』投稿規程及び執筆要領

1. 投稿規程

1) 投稿資格について

- ・ 第1執筆者として投稿する資格があるのは、文化社会学部の専任教員及び特任教員とする。なお、学内外の研究者等が共同執筆になることは、これを妨げない。
- ・ 文化社会学部の専任教員及び特任教員以外の者が投稿を希望する場合は、投稿を認めるか否かを文化社会学部紀要委員会において審議し、文化社会学部長の承認を得て結果を本人へ連絡する。

2) 投稿原稿について

- ・ 未公開の学術論文、研究ノート、調査研究報告、その他（訳註、解題、翻刻、翻訳、教授法研究、等）の投稿を受け付ける。
- ・ 投稿を希望する者は、文化社会学部紀要委員会から周知された申込要領に沿って、申込〆切日までに投稿申込を行う。
- ・ 投稿申込を受領された者は、投稿〆切日までに、文化社会学部紀要委員会から周知された執筆要領及び提出要領にしたがって原稿を執筆・提出する。
- ・ 文化社会学部紀要委員会は、投稿原稿の採否・掲載ジャンル・掲載順等を決定し、必要に応じて修正等を依頼する。
- ・ 掲載が決まった原稿が多数の場合、一部の原稿の掲載を次号へ送ることがある。

3) 著作物の電子化と公開について

- ・ 掲載された著作物の著作権は、執筆者が有する。
- ・ 掲載された著作物の執筆者は、当該の著作物に関する複製及び公衆送信を文化社会学部紀要委員会に対して許諾したものとみなす。同委員会が複製及び公衆送信を第三者へ委託した場合も同様とする。
- ・ 掲載された著作物は、東海大学機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

4) その他

- ・ 抜刷の制作を希望する場合は、執筆者がその実費を負担する。
- ・ 掲載された論文等を自身の著作等に転載する場合は、文化社会学部紀要委員会へ連絡す

る。

2. 執筆要領

1) 形式

- ・ 使用言語は、原則として日本語または英語とする。（以下、使用言語が日本語の場合を想定して記載する。日本語以外の場合は、日本語での執筆要領に準じるものとし、詳細は文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 原稿はテンプレートに入力し、電子データを提出する。
- ・ 原稿は縦組みでも横組みでも可とする。
- ・ 注は本文末尾または章ごとに掲げる。脚注形式も可とする。原則として番号は全体を通し番号とする。
- ・ 原稿には通し番号（ページ数）を付す。
- ・ 図及び表はテンプレートに沿って本文中に入力する。また、図及び表には見出し（例：表一、図一、など）を付す。
- ・ 論文及び研究ノートは、英文タイトル、執筆者名の英文表記、Abstract（単語数100語程度）をテンプレートの該当箇所に記載する。
※ 執筆者名の英文表記は、原則として IIZUKA Koichi の表記方法とする。

2) 分量

- ・ 原則として総字数は3万2000字以内（注を含める）とする。（総字数が極めて大きくなる場合には、扱いについて文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 図及び表は総字数には含めない。

3) 体裁

- ・ 原稿の中で表記を統一する。
- ・ 原稿の中で代名詞、副詞、接続詞、助動詞、助詞の表記を統一する。
例) 敢て=あえて、未だ=いまだ、及び=および、のように、原稿の中で表記が分けないようにする。
- ・ 和文は全角、欧文は半角で記述する。

※本規程及び要領の制定・改訂・廃止は、文化社会学部教授会の承認をもって行う。

(2018年11月21日制定)

(2021年7月21日改訂)